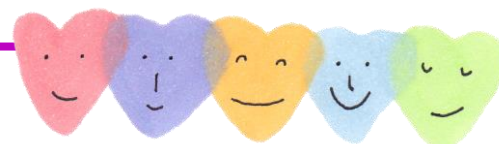




6月の読書目標

戦争と平和に関する本を読もう

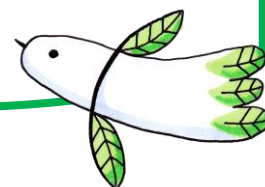


ライブラリー



今月は平和月間です

隣国からミサイルが飛んできたり、遠い国での戦闘で物資が足りなくなったり、物価が上がったり。遠い国の戦争は日本に住む私たちには関係ないようですが、世界はつながっています。日本だけが平和でいることは不可能。沖縄戦について学びながら世界各地の紛争にも目を向けてください。平和学習の本セットも届いています。中体連も終わったし、今月は戦争と平和に関する本を意識して読んでみよう！



「人生はみじかい。
だから友だちと争ったり
戦ったりする
ひまなんてないんだよ」



(ジョン・レノン)

おすすめの本

4コマですぐわかる

『みんなの防災ハンドブック』(草野かおる)
今月は教頭先生におすすめの本を聞きました。最近地震の発生が多く、台風も増える時期に近づき、本屋で手にとったそうです。災害について～もしもの時に何をすればよいかなど4コマで描かれているので、楽しく防災知識が身につきます。



東日本大震災後、話題になったブログの書籍化。図書室にあります。

だざいおさむ 太宰治 (1909年6月19日～1948年6月13日)

青森県津軽の県下でも有数の大地主の家に生まれる。自殺未遂や薬物中毒を繰り返しながらも、戦前から戦後にかけて作品を次々に発表する。主な作品に『走れメロス』『人間失格』などがある。6月19日は『桜桃忌』と名づけられ、太宰の墓に今も多くのファンが参拝に訪れる。





「平和でだれもが受け入れられ、すべての人が
法や制度で守られる社会をつくろう」

紛争の影響を受けている国や地域で暮らす子どもたち

約2億4,600万人

身分が証明されない
から学校に通えない



戸籍のない子は
ワクチンなど
うけられない

「平和」の逆のイメージは、戦争や紛争が浮かびます。しかし SDGs16 は戦争だけでなく、身近な暴力や差別をなくし、公平な裁判や正しい政治が行われるよう設定されました。目標 16 実現のために私たちにできることはなんでしょう？
まず、どんなことが世界で今、おきているのかを知ること。社会のしくみや法律、子どもの権利について学んだり考えたりすること。そして、自分のまわりの人たち一人一人の多様性を互いに受けいれあうこと。これらは今すぐ私たちができる取り組みです。



おすすめの絵本あります

「字のないはがき」(向田邦子 原作)

戦争中、小さな妹が疎開した。親のきもち、子どものきもちがじーんと伝わってくる実話。西加奈子のクレヨン画もかわいい！



「エリカ 奇跡のいのち」(ルース・B・ジー)

第二次世界大戦中のドイツ。ナチスの収容所へ向かう電車から赤ちゃんがほうりだされた。小さな命の奇跡を描いた絵本。



平和図書

おすすめのほん

新しく入った本の中から選びました。

「ズラータ、16歳の日記」(ズラータ)

戦禍のウクライナから夢を叶えるために
憧れの日本へやって来た少女の日記。

銃撃からは逃れてきたけれども、自分の
夢からは絶対に逃げない」



「ソルハ」(蒂木蓬生)

アフガニスタンで政権が崩壊し、タリバンの
圧政が始まった。特に女性から教育と自由が奪われた。少女の目を通して描かれた
平和へのメッセージを込めた一冊。



「弟の戦争」(ロバート・ウェンストール)

湾岸戦争が始まった夏のある日、弟は「自分はイラク軍の少年兵だ」と言い始めた。
弟を襲ったふしぎな事件を通して、戦争の不合理さが伝わってくる迫力ある物語。



「縞模様のパジャマの少年」(ジョン・ボイン)

ナチス政権下のポーランドの収容所。収容所を管理する将校の息子と収容されたユダヤ人の少年の物語。二人の友情が純真なだけにラストは衝撃的です！

